

## 卒業生アンケート結果の検討（こども学科）

（回答者：61名）

### 1. こども学科の教育の成果と課題

・現在でも9割以上の方が資格、専門性を生かして勤務していること、幅広い教養や専門的な知識・技術が身についたという回答が95%以上となっていること、大学で学んだ専門的な知識・技術が「大変役に立っている」「役に立っている」という回答の合計で約90%となっていることなどから、こども学科の教育は、保育者養成という観点において、十分成果を挙げているものと考えられる。

・「他の職員や保護者とのコミュニケーション能力」・「地域の諸機関と協働・連携する能力」については、「（あまり）身につかなかった」という回答が比較的高くなっているが、これらの能力は、短期間で身につくものではないため、やむを得ないように思う。ただ、保育者としてのイメージ（学生が大学で学ぼうとする内容）が、担任として子どもの保育に直接携わることが中心となっている可能性もあるため、キャリアアップの見直しを含め、中長期的に、子どものケアに留まらない専門性を深めることをイメージできるような内容を加えていけると良いのかもしれない。

・「専門性を活かした勤務をしている」という回答が9割を超えており、「専門的な知識・技術」が「十分身についた」と回答した割合が29.5%、「身についた」と回答した割合が67.2%と高く、保育者養成の学科として十分に役割を果たしていることが示されたと思う。

・「幅広い教養」や「教育・保育活動を主体的に創り出す力」、「問題解決能力」など、多くの設問について、「十分身についた」もしくは「身についた」と回答する割合が多く、卒業生がこども学科での2年間の学修に対して、満足をしており、肯定的に捉えていることが理解できる。

・「地域の諸機関と協働・連携する能力」は、「あまり身につかなかった」という回答が32.8%であり、多職種連携の学びの機会が課題である。卒業生の半数近くが、地域の諸機関との協働による保育についての学びが不足していることを指摘していると読み取ることができる。この点は、2年間のカリキュラムにおける課題として捉え、諸機関との協働的な学びの機会を検討する余地があると考えられる。

### 2. 今後の教育の質の向上のために改善できる点

・「学会や研究会等自主的な勉強会に参加していますか」の設問については、約7割が参加していないと回答している。他の設問への回答結果からも、学び続ける意欲を持った卒業生であると推察すると、卒業後の学びを深める研究会を本学で創出するなど、リカレント教育の充実を図ることが必要であると考えられる。

・自由記述からも、コミュニケーション能力やグループワークなどが課題のため、改善していく余地がある。

・自由記述で指摘された点について、各科目で見直しを図る必要がある。

### ○ 改善に向けた対応策

・多職種連携に関する内容を学ぶ機会を拡充できるカリキュラムについての検討を進める。